

第4回八潮市庁舎建設基本構想策定審議会 議事録

開催日時	平成 29 年 10 月 27 日（金） 午後 2 時から 4 時 20 分まで	開催場所	八潮メセナ 3 階 会議室 1・2
出席者 〔敬称略〕	(1号委員) 平石正美、山田あすか (2号委員) 上村義弘、大森真理子、小倉恵美子、籠倉正美、前田由美子 (3号委員) 内田亜希子、近藤晶作、齋藤勝、昼間竹雄、古庄正登、三ヶ島幸生		
欠席者 〔敬称略〕	(1号委員) 作山康 (3号委員) 金内美智留	傍聴者数	7人
審議内容 及び審議 結果の概要	1 開会 2 会長あいさつ 3 第3回審議会議事録内容の確認について ※事務局説明、内容について了承 4 議 事 (1) 前回（第3回）審議会のふりかえり ※事務局説明 (2) 議題 ①市民アンケート調査結果について ②ワークショップで出された主なキーワードに対する現状及び 今後の取組みについて ※①・②事務局説明、審議 ③報告事項 ※③事務局説明 ④基本構想のまとめに向けて ※④事務局説明、継続審議 5 その他 6 閉 会		
提供資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 席次 ・ 第3回審議会議事録（案） ・ 第4回八潮市庁舎建設基本構想策定審議会資料 ・ 高校生アンケート結果 		
	補足資料 <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本構想（骨子）（素案とりまとめのイメージとして参考に提供） ・ 市民アンケート調査票（市民アンケート調査結果報告の補足資料として提供） 		

【議事詳細】

第4回八潮市庁舎建設基本構想策定審議会

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 第3回審議会議事録内容の確認
※事務局説明、内容について了承
- 4 議事

(1) 前回(第3回)審議会のふりかえり

事務局	資料に基づき説明
委員	(質問等なし)

(2) 議題

①市民アンケート調査結果について

事務局	アンケート結果の問9・問10以外について、資料に基づき説明
議長	ただいまの報告について質問をお受けしたい。
委員	5ページに記載されている回収数と、6ページに記載されている男女別の回収数の合計について、差異があるが何故か。
事務局	年齢や性別を答えていただく質問で、無回答の方を計上していないためである。
事務局	問9・問10について、資料に基づき説明。
議長	ただいまの報告について議論をしていきたい。 説明の中にもあったが、アンケートの回答者の年齢層とワークショップの参加者の年齢層の違いが出ているものと考えられる。そういったことを踏まえたご意見をお聞かせいただければと思う。
委員	13ページ問9⑤で「魅力がある」の回答数が多いが、この「魅力」については具体的な意見等が寄せられているのか。
事務局	アンケートの中では具体的な意見をいただけるような設問とはなっていない。自由意見が410数件寄せられており、まだ分析途中である。
議長	自由意見については分析途中とのことだが、市民からの意見が多いポイントであるので、重要な意見として受け止めていただきたい。
委員	複数回答可となっているので、例えば「魅力がある」と同時に「デザイン性」を選択していれば、その人は「デザイン性があると魅力につながる」と考えていると想像できる。
委員	「回答者に関し、読み取る際の背景・条件」「意味や解釈」「持っていきたい方向性」の3点について、考慮したい点がある。 まず、1点目に関し、46ページについて、ワークショップで出た意見とアンケート結果の差が実数で示されているが、参加者数や回答数が異なることを踏まえると読み取りの判断に誤りが生じる恐れがある。また、15ページについて、中学生と高校生の親からの回答率が高いということがわかる。未就学児や小学生の親は比較的興味関心が低いもしくはアンケートに

	<p>回答する時間がないと考えられるが、回答を集めづらい世代の意見として重要となってくる。</p> <p>2点目に関して、18 ページ、利用頻度についても、「ほぼ来ない」「たまに来る」「比較的によく来る」といった分類をすると、回答の意味が変わってくるだろうと考える。例えば、どのようなスペースが欲しいかとの設問への回答を取り上げても、利用頻度の高い人の意見は、実際利用した実感の意見として、利用頻度の低い人の意見はそういった場所があれば行くかもしれないといった意味の意見として捉えることができ、それぞれの意味や解釈が異なってくる。</p> <p>3点目に関して、高齢者からの回答が多いが、例えば今後市として若年層の定着を重視するのであれば、実数のみでは計れない。現在利用していない方に特化すれば、どうすれば利用してくれるのかといった視点になるし、利用している方に特化する方法もある。すべてのニーズに応えられないとすると、どの点を重要視するのか、今後審議会としてもコンセプト作りに大きく関わってくると思われる。</p>
議長	<p>委員からアンケート調査についての重要なご指摘をいただいた。庁舎は、これまでは行政サービスの提供の場所に終始していたが、今後は、まちづくりや協働の場として役割を担っていけるのか、また、次の世代の人たちが生まれ育った場所として愛着・アイデンティティをもっていけるのかといった点の議論が必要となってくる。</p>
委員	<p>埼玉都民という言葉があるように、近年の八潮駅周辺のマンション建設等により、住宅を求め八潮に住み、都内に勤める人たちが増えている。高齢者の回答が多いが、そういった人たち、働く世代で役所に来ることが少ない方々のニーズも勘案しながら、かつ行政規模に見合った市民の負担が過度にならないような庁舎がいいものと感じる。</p>
議長	<p>同じ市民でも、様々なニーズがある。そして、市としては、これから八潮に来る人たちにも、愛着を持って住んでいただきたいと考えているのではないか。これらを踏まえて議論を進めたい。</p> <p>例えば、29 ページでは、問 9 ①について性別年齢別のクロス分析がされているが、30 代女性に着目すると、子育てについての要望が多いことが分かる。子育ての問題をとおして、協働の取組が進められることも考えられるのではないか。地域間、世代間でニーズの違いがあるが、それらをどうつなげていくのか。市民の目を活用した安全安心をどのように実現していくのか、戦略的に考えていく必要がある。</p>
委員	<p>29 ページについて、高齢者は高齢者が大事と回答している一方、子育て世代は子育てが大事だと回答しており、世代間格差があり共生・協働が感じられず、考えていかなければいけない点である。</p> <p>また 17 ページ、問 17 市内への通勤・通学の調査結果については、問 13 の家事専業、職についていない方を除いていないのではないか。単順に、その回答の方を除くと、仕事をしていて市内に通勤等をしていない方は、約 29%となる。ベッドタウンとして強く意識しすぎてしまう危険性がある。</p>
事務局	<p>ご指摘のとおり、単純集計となっており、家事専業、職についていない方は除いていない。</p>
委員	<p>どこまで詳細にこのアンケート結果を読み込んでいくのか、非常に難しいと思う。</p>

	<p>住んでいる年数についての回答から、市民には、高度成長期に移り住んできた人が多いことがわかる。市役所の職員は、市外に住んでいる方が6割程度いると認識している。今回のアンケートも市民を対象としていて市外から市内に通勤している方の意見は出てこない。こういった状況を色々と勘案していくと荒いデータの読み込みしかできないのではないかと考えている。</p> <p>14ページ問10の①や②で聞いているような機能も市役所に本当に必要なものなのか。市役所に来ている市民の多くも、庁舎の1、2階までしか利用していないのではないかと。そういった市民の意見を参考として、市役所に本来必要なものを考えていくことも難しいのではないかと。</p> <p>今後構想を策定していく上で、アンケート結果をどの程度踏まえていくのか、非常に難しい問題である。</p>
議長	<p>アンケートの結果のみをもって、構想を策定していくことは難しいと考える。庁舎として必要な機能と、付加的に必要な機能を検討していくために、市民のニーズを把握するためのものと理解している。今回の建替えの議論の起点は、耐震性の不足ということである。防災機能を高めたいということが第一に必要な機能であり、どこまで付加的な機能が整備できるか。また、財政についても検討すべしとの回答が市民より寄せられている。審議会では、事務局の検討の助けとなるよう、重点分野についての優先順位を考えていくことが重要であると思われる。</p>
議長	<p>防災機能について議論を進めるために、防災に関する取組についてご説明願いたい。</p>

②ワークショップで出された主なキーワードに対する現状及び今後の取組みについて

事務局	<p>防災に関する取組について、資料52及び53ページに基づき説明</p>
議長	<p>「共生・協働」と「安全・安心」が総合計画では重要であると考えられている。私は、安全・安心が先に来ると考えており、住民の安全・安心を確保するために、共生・協働が使われると考える。安全・安心の確保には、防災が非常に重要な論点となる。どのように防災機能を高めていけば、安全・安心が確保できるのか。</p>
委員	<p>共助・公助で、すべてに対応することは難しい。今は自助が重要となっている。これまでは3日間自助で耐えれば共助・公助が届くとされていたが、東日本大震災後は1週間の自助が必要と言われるようになってきている。公共としての備蓄も足りていない状況だが、投入できる税金の限度があり、すべては用意できない。庁舎の建設にあたっては、情報の発信や受信ができる拠点となることを考えてはどうか。市役所がどんなに安全でも、市民が市役所に毎日いるわけではない。災害時の拠点となるよう考えていくべきである。</p>
事務局	<p>行政の面では、地域防災計画等の修正を進めている。その一つとして、発災直後から動き出せるような行政となるよう、BCP（業務継続計画）についての見直しを進めている。また、災害時の外からの人員の受け入れについて、受援計画も併せて作成していく。備蓄の計画については、避難所となっている各小中学校に発電機や照明の整備を予算の範囲内で進めている。地域の方と協力して、不足する物資についても対応していきたいと考えている。災害発生後、72時間、いかに市民の命を守っていくかが重要であり、自主防災組織の皆様と連携を</p>

	とっている。さらに、小中学校の児童・生徒の手を借りることも必要であると考え、防災リーダーの育成についても検討している。市民と行政との両面で取組を進めている。
議長	私の発言もあり、防災に寄った議論となった。 続いては、基本方針に関し、12 ページ問 9 の市民からの回答と審議会の考え方が合うかどうかについて議論をしたい。基本方針の①については、利便性を最重要視するという考え方でよいか。
委員	アンケートはアンケートとして、審議会として必要な議論をしてはどうか。 八潮は水害の多い地域であり、それについての対応を考えるべきである。先日の台風発生後、他自治体の様子を見てきたが、周辺の用水等は氾濫寸前となっていた。 また、財政の問題だが、自分の家を建てる時もそうであるように、予算面が検討の起点となるのではないかと。現在予算の話があまり出ていないが、それで良いのか。草加市の建設基本計画には予算についての記載がある。もう少し具体的話をすべきではないか。
議長	この審議会は、どのような建物、機能が必要かということを中心に議論する場と位置付けられている。予算については、次の基本計画で詳細に議論がされるものである。 この審議会では、市民からの機能についての声を、判断していくことが必要である。
委員	アンケートの結果から、八潮市民は市役所に来て、魅力を感じていないのだろうと想像する。デザイン性が求められているのではないかと。複合化されれば便利であると思うが、どこまで機能を複合化させるのか、議論が必要である。メセナについては、本審議会において議論の対象とするのか。 町会、自治会として庁舎に求めているのは、物理的な防災機能ではなく、情報発信の場としての防災機能である。確実にできることを明示し、それを確実に実施する市役所としてほしい。市として、市民に何をどの程度保障できるかを明示することを考えながら、市役所について検討を進めていただきたい。 「近隣自治体と同じです。」といった安易な議論はやめていただきたい。 また、残りの審議会数を考えると、議論が収束しないのではないかと危惧している。
委員	例えばコンビニエンスストアでは、高齢者も利用しやすい動線が考えられている。市役所も利用しやすい動線となるよう検討してほしい。また、Wi-Fi も若い方や外国の方は重要視しており、Wi-Fi を利用するためにカフェを利用する人もいるほどである。導入を検討してほしい。
委員	今回の審議会のアウトプットはどのようなイメージか。
議長	この場でアンケートを詳細に分析していくことは難しいと考える。この審議会として、どこに優先順位をつけるのかを議論していきたい。 そして、その優先順位に基づいて、必要な機能を議論できればと思う。
委員	何を重視するのかキーワードを取り出し、それを補足していくのがよいのではないかと。
議長	12 ページ問 9 ①基本方針 1 については、利便性を重視しつつ、色々なニーズに応じていく、といった考え方でよろしいでしょうか。 続いて、基本方針 2 は防災機能を重視しながら、防災機能に関する多機能性、耐震性を高め、災害時にみんなが集まれるという捉え方でよいか。

委員	基本方針2を見ると「まちづくり」という言葉もあるので、多機能性という言葉は、必ずしも防災機能を連想した意見ではないかもしれない。防災拠点性を第一とし、地域交流やみんなが集まれるなどの多機能性がある、といった考え方はどうか。
議長	そのようにまとめてよろしいか。 基本方針3については、窓口がはっきり分かりやすく、適正な規模で配置されていることが重要との考え方でよいか。 基本方針4については、捉え方が少し難しい部分であるが、あまりお金をかけすぎず、色々な対応が将来できるようにしてほしい、といった考え方でよいか。
委員	長期的な視点で見た財政や費用に配慮されており、そのために民間企業が活用される機会が確保されているという考え方で良いのではないか。
委員	建物を50年使うと考えると、それを50年間の分割払いとできるのか、民間事業者側の事情も考慮する必要がある。 パブリックコメントを受け付けることも考えると、特徴的な庁舎や、利便性のある庁舎、といった、様々な言葉が出てくると思う。それらをうまくとりまとめてられるよう、努力願いたい。 複合化の議論が出ているが、予算の問題や、容積率の問題、建蔽率の問題、機能として必要な面積等を考えると様々な制約があり、あまり現実的じゃないのではないか。
議長	様々な事柄が考えられるが、財政負担をできるだけ軽減する手段として民間活用や企業との連携も取り入れるといった委員の意見を採用したいと思う。 基本方針5については、魅力を明確にしてほしい、という理解でよいか。
委員	基本方針では概念を示し、詳細は建築家にまかせれば良いのではないか。
委員	デザイン性やシンボル性がある八潮らしい魅力のある庁舎、というのはどうか。
議長	アンケートの結果については、審議会として以上のように捉えることとしたい。

③報告事項

事務局	資料に基づき説明
議長	この審議会の議論とタイミングとは合わないという理解でよいか。そしてこの審議会としては、出来るだけコスト増とならないように一言付け加えるといった対応が考えられる。
委員	メセナとの複合化には反対である。メセナは平成2年にできた建物であり、それを建て替えるとなると、市民から反対意見が出ると考えられる。市民が納得できる結論が得られるとは思えない。
議長	市としても、コストの面等から総合的に判断されると思う。この審議会としては、メセナを入れないというところまで、具体の意見は出さない場になるだろうと考える。
委員	市では、メセナ規模の拡大についても検討するのか。現状の規模での複合化を考えているのか。
事務局	何故メセナが複合化の議論の土俵に乗ったかということ、建物の老朽化もそうだが、設備の問題も起点となっている。設備の耐用年数を超えており、それらを取り替えるのに、多大な費用がかかる。また、天井についても、既存不適合となっており、その改修にも費用がかか

	る。建替えについての議論はもちろんそうだが、リノベーションも視野にいれて検討を進めている。ソフト的な仕掛けにより、利用者を増やすこともできると考えている。アセットマネジメントの考え方から、基本的には規模を大きくしない方向で検討しているが、様々な面から検討を進めているところである。
委員	違う視点では、集約化しすぎると、一極に人が集まりすぎるリスクがあるようにも感じる。
議長	審議会としては、最良の判断がなされることを願うと述べるにとどめる。

④基本構想のまとめに向けて

事務局	資料に基づき説明
議長	審議会としてまとめる必要がある事項について説明いただいた。 また、基本構想（骨子案）が配布されており、今後これの具体化を進めるものであろうと認識している。 これだけは、盛り込んでおく必要があるだろうという事項について意見があれば、お聞かせ願いたい。
委員	（意見なし）
議長	まだ作業段階であると認識している。次回の委員会で基本構想（素案）の具体的な内容が示されるという理解でよいか。
事務局	より肉付けされたものを提示する予定である。
議長	それなりの文量となることが予想される。委員が事前に確認できるよう、早めの資料送付を心がけていただきたい。

5 その他

事務局	高校生アンケートの結果について資料に基づき説明 次回の第5回審議会は、事前にご連絡とおおり、11月17日（金）9時30分から、八潮メセナの3階会議室での開催とさせていただきます。後日、詳細についての連絡をさせていただきます。また、資料の事前送付についてもなるべく早く対応させていただきます。第6回の審議会は1月下旬、第7回は2月の中旬で調整を進めている。
-----	--

6 閉会

（以上）